



通巻 135 号
安曇野市豊科郷土博物館友の会
令和 7 年 1 月 6 日発行



「トイレについて考える」

友の会副会長 藤原 恵正

今年は安曇野市がでて 20 周年と聞きます。そういう私も、安曇野市に移り住んで 45 年目を迎えました。この間の市民生活の変化は、すさまじいものがありますね。博物館の皆さんも、昨年は「安曇野の食卓」というテーマでしたか、とても楽しい企画展示をしていただきました。今回、「楽しい企画展示」とは行きませんが、「トイレ」の変化も考えてみたいのです。

古希を迎えた私の子どもの頃は、学校のトイレに代表されるようにトイレはつらい場所でした。

45 年前、私が安曇野の農家に入った時も、5 年前に新築した家でしたが、男子用のトイレと、和式トイレが小部屋で並んでいました。また、農家でしたから、両親は時期が来ると、二人で下肥を掻き出して、畑に撒いていました。県立歴史館に行けば、江戸時代の農家の家が作られており、家の外には肥溜めがリアルに再現されています。私も「将来は、やらなければ…」と思ったことはありました。

ところが、ここでトイレの大発明が現れます。それは、T 社が実用化させた、「洗浄便座」でした。「下水道の整備」と「洗浄便座」は、日本のトイレをかえました。

我が家も、17 年目に下水道導入のために、水回りのリフォームをしました。そのために、下肥の掻き出し作業はなくなりました。ホッとしたが、今は亡き両親の苦労には頭が下がります。

そして、各家庭からは和式トイレが次第に無くなり、洋式の洗浄便座のついたものが当たり間になりました。今度は、保育園や小学校の子どもたちが、「学校の和式トイレが使えない」という事まで派生しました。学校も公共施設も、その対応に追われているのではないでしょうか。また、家庭では、男子用トイレが無くなり、洋式トイレでの男子の小便も座ってするように…と言われるようになりました。男性の皆さん、今はどうされていますか。やはり、座りますね。



「イヌノフグリの咲くところ」

博物館学芸員 松田貴子

ちょっと気が早いのですが、早春の植物の話題を。安曇野の春の里の風景の構成メンバーとして、すっかりおなじみの植物にオオイヌノフグリがあります。小さくてかわいらしく青い花がじゅうたんのように広がっていると、なんともうれしいきもちになりますね。オオイヌノフグリはヨーロッパ～西アジア原産で、明治時代に日本にやってきた外来植物です。

いっぽう、在来種でイヌノフグリという植物があります。花はオオイヌノフグリよりもずっと小さくて、ピンク色です。イヌノフグリという名前は果実の形に由来しますが、オオイヌノフグリとは違って「なるほど！」と思うこと請け合いなので、ぜひ調べてみてください。そしてイヌノフグリは国と長野県の絶滅危惧種です。

さて、我が家の中庭にはイヌノフグリが生育しています。駐車場がつくられたのは今から 60 年ほど前のことです。亡くなった義父は、植えた覚えはないと言していました。オオイヌノフグリが増えたせいでイヌノフグリが減ってきており、といわれることがあります。生育環境がかなり違うと思います。イヌノフグリは、古い石垣や砂利や砂地など、乾燥してほかの植物がそれほど繁茂していないようなところに生えています。でもいつたん造成してしまうと、きっと簡単にいなくなってしまうでしょう。

農耕地周辺では土や植生もしおちゅう手が入るので、むしろ、人の生活圏でありながら忘れ去られたようなところに残っている、というのが興味深いところです。例えば、50 年以上前から土がいじられない民家、学校や神社などの片隅ではないかな～という気がします。友の会のみなさんのお住いの近くに、もししかしたらひっそり暮らしているかもしれません。見つけたらぜひ教えてください。



左がイヌノフグリ。実際の花の大きさの違いはこのくらいです。

友の会活動

山草部 「部閉幕・・・皆様に感謝！」 部長 古幡 正夫

博物館の玄関に山野鉢を飾ることから発足した山草部ですが、令和 7 年度の活動をもって廃部し、博物館友の会を退部することに決定しました。山草部員の高齢化と新部員の加入がないなどが主要因です。

設立時から活動されているお二人は 90 歳を越える年齢になり、各部員とも山野鉢の植え替えや灌水・施肥等鉢の管理も大変になっています。近年は年間活動の自然観察会、山草見学会などは参加者が 4 ～ 5 名と少なく、会運営が難しくなっており、第 40 回山草サクラソウ展を最後に廃部を決めていたのですが、今まで育ってきた山草をもう一度展示しようと 41 回展を開催しました。

最後の 41 回山草サクラソウ展には廃部を知り多くの方々が入館され、熱心に観察され満足していただきました。来館された中には廃部を新聞で知り 20 年ぶりに訪れたなど、大勢の方に廃部を惜しまれる展示会となりました。

最後になりましたが、山草サクラソウ展には毎回、館長さんをはじめ学芸員・職員の皆さんに搬入搬出の大変な作業をお手伝いいただき心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

部員の方々には長年にわたり最後まで山草部を支えていただき感謝申し上げます。

自然と暮らしの文化部「出会いに感謝」 部長 竹内明子

自然と暮らしの文化部との出会いは何年前になるのでしょうか。広報での藍染めの募集でした。何も知らずに行き、生葉染めを体験し、こんなことが出来る場所があることを知りました。一人ではなかなかできない事を教えていただき、入会を決めました。

それから機織り、ただ織るだけではなく機の仕組み、名称、糸の掛け方、そんなことを知ることで、糸の大切さ、布の大切さを感じたり、綿を栽培しその綿で糸を紡いだり、染めも色々のもので染めました。渋柿で柿渋を作ったり、まだまだありますが、普通の生活では体験出来ない事、たくさん体験させてもらっています。

本当に友の会に入りよかったです。こんなに楽しませていただき、職員のみなさまにも感謝です。また、一緒に活動している仲間にも感謝です。ありがとうございます！



【藍の乾燥葉染め 2025.10.19】



友の会展覧会



11月8日（土）～11月30日（日）

第11回戦時生活展 【市民タイムス 2025.11.8より】

空襲、学徒動員、引き揚げ… 戰争の体験談と資料紹介

戦後80年の節目に、安曇野市豊科郷土博物館友の会戦時生活部（白井泰彦部長）が行った戦時中の体験談や関連資料を集めアンケートの結果をまとめた展覧会が8日、同博物館で始まる。市内を中心とする戦争体験者やその遺族67人から寄せられた誓言を、軍隊手帳や戦時中の衣類などとともに紹介。鉱後の守りや戦後の生活ぶり、戦争体験者の帰郷後の様子がどうであったかを知ることができる。（長尾浩道）

た部屋が開き取った戦争体験談展示を書いた
「戦後80年」

郷土博物館会 調査結果 きょうから展示

多くの体験談、出征記念の手紙、シベリア扣留の捕虜等、約200点の物品が集まった。提供者は「安曇野の戦争があったことを感じ、戦争を知る機会となりました」と話す。

◆場所：博物館2階学習室 ◆時間：毎回10:30～11:30
◆定員：各回30人 ◆各回申込：上記期日から電話で Tel 0263-72-5672



【80年にてソ連抑留生活句日記】は語る 終戦・抑留生活・望郷】唐木博夫さんの話】

11/21に明南小、11/27には穂高西小の子どもたちの見学があり、戦争と平和について部員と一緒に真剣に考えたり、心温まる絵手紙を見ながら楽しく話をしたりしていました。また期間中に、市内は勿論、県内外からも大勢の来館者があり、大変充実した友の会展となりました。

友の会展・冬季特別展の予定

令和8年1月10日（土）～2月1日（日）

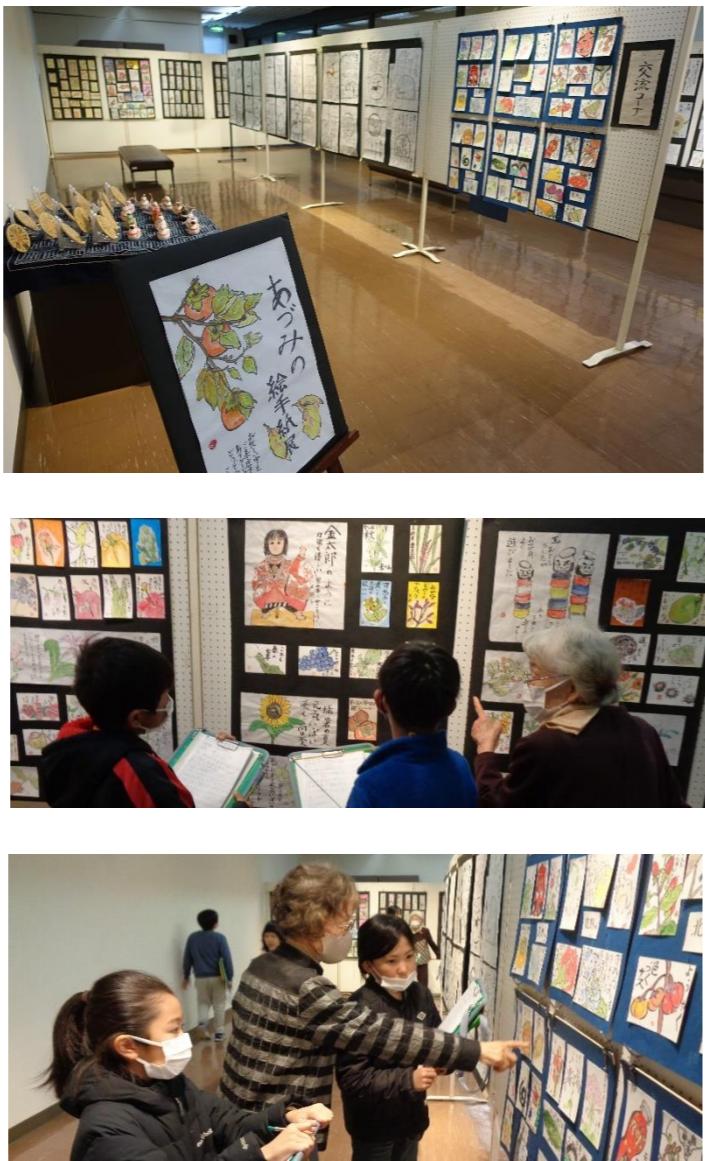
★第71回新春書芸展 ・・・ 新春を祝う書と個性あふれる作品を多数展示！

◆千野秀濤先生のギャラリートーク 1月15日（木）午後2時から

★冬季特別展 「一体、これは何だろう？ 昔の珍道具」展

・・・見ただけでは何だかよく分からない“大正・昭和の珍しい道具たち”を特別展示！

第22回絵手紙展



令和7年度 今後の博物館講座・展覧会の予定

こたつ講座予定

	日時	演題	講師	申込
①	12月20日（土）	コメってなんだろう～意外と知らないコメの力～	宮本尚子	12/10（水）～
②	1月10日（土）	考古学者は土器をどう見ているか	土屋和章	12/23（火）～
③	1月17日（土）	見る・くらべる・感じる 北アルプスの針葉樹 ～シラビソとモミの仲間～	松田貴子	1/7（水）～
④	1月24日（土）	神と仏が手をつなぎ1000年 ～安曇野の神仏習合から～	原 明芳	1/14（水）～
⑤	1月31日（土）	大正の発明・ゼンマイ式自動蝶捕器を 実際に動かし、語る	窪田尚幸	1/21（水）～
⑥	2月7日（土）	古厩本郷を歩いて ～豊科郷土博物館友の会の活動から～	逸見大悟	1/28（水）～

◆場所：博物館2階学習室

◆時間：毎回10:30～11:30

◆定員：各回30人

◆各回申込：上記期日から電話で Tel 0263-72-5672

令和7年度春季企画展 会期：令和8年2月21日（木）～5月6日（水）

土の中からの贈り物 ～ここ掘れワンワン～

水晶などの宝石、1500万年前のクジラの化石、5000年前の縄文時代の黒曜石など、土の中から掘り出された「たからもの」を展示します。

＜主な展示物＞

- ・水晶(穂高) ・花崗岩(有明) ・桂華(中房)
- ・マッコウクジラ椎石 ・アシカ顎骨 ・サメ歯
- ・黒曜石の塊 ・石鏃
- ・縄文土器 ・石器 ・埋蔵錢 等



【ヒゲクジラ類の右上顎骨】

・・・展示に向け調査・収集中！

＜関連イベント＞

化石のワークショップや「たからもの」鑑定会などの子ども向けの関連イベントも計画中です。お楽しみに！